

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
平成3年1月20日発行(毎月1回20日発行)  
物性研究 第55号 第4号

ISSN 0525-2997

**vol.55 no.4**

# 物性研究

**1991/1**

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不相当と認められたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ $\square$ ”、イタリック“ $\text{—}$ ”、ゴシック“ $\sim$ ”、ギリシャ文字“ $\gamma$ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい  $o$  と  $a$  と  $0$  (ゼロ)、 $u$  と  $n$  と  $r$ 、 $c$  と  $e$ 、 $l$  (エル) と  $1$  (イチ)、 $x$  と  $\times$  (カケル)、 $u$  と  $v$ 、 $\dagger$  (ダガー) と  $+$  (プラス)、 $\psi$  と  $\phi$  と  $\Psi$  と  $\Phi$  等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（ $13 \times 19 \text{cm}$ ）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不相当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ $\square$ ”、イタリック“ $\text{—}$ ”、ゴシック“ $\sim$ ”、ギリシャ文字“ $\gamma$ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい  $o$  と  $a$  と  $0$  (ゼロ)、 $u$  と  $n$  と  $r$ 、 $c$  と  $e$ 、 $l$  (エル) と  $1$  (イチ)、 $x$  と  $\times$  (カケル)、 $u$  と  $v$ 、 $\dagger$  (ダガー) と  $+$  (プラス)、 $\psi$  と  $\phi$  と  $\Psi$  と  $\Phi$  等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（ $13 \times 19 \text{cm}$ ）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

## 議 事 録

### 第8回物性専門委員会（第14期）議事録

出席者 伊達宗行、 安藤正海、 石井武比古、 遠藤裕久、 糟谷忠雄、  
勝木 渥、 金森順次郎、 上村 洸、 川村 清、 久保亮五、  
小林俊一、 鈴木増雄、 豊沢 豊、 長岡洋介、 中嶋貞雄、  
守谷 亨、 山田安定、 禪 素英

#### [報告事項]

#### 1. 学術会議報告（中嶋）

##### ○ 総会関係

- ・南アビザ問題について、かねてより ICSU が日本政府の方針を批判してきたが、本年10月1日以降研究者への規制が解除されることとなった。

##### ○ 運審関係

- ・来春の総会（今期最後の総会）は5月21～31日の間に開かれ、2月連合部会は3月6日に開かれることとなった。
- ・各部会から2名ずつ選出された委員で構成された将来計画委員会が発足した。今後、移転問題や国際対応について議論する。
- ・物研連等からの「大型放射光施設に関する申し入れ」が報告書となった。この申し入れは、effectiveにはたらいっているという近藤会長の発言があった。
- ・SSCに関する物研連の見解の案文について運審メンバーに説明したところ、多くの質問が出たので、10月の物研連で十分討議すると答えておいた。
- ・15期登録学術団体の審査に対する異議申し立てがなされたが、推薦委員会決定どおりとすることとした。
- ・「国際対応に関する小委員会報告」は外部から利用しやすいように作り直すこととなった。
- ・研究者養成問題については、長期的視野から問題になることがらにかぎって審議することとした。
- ・化学研連がNMR装置の設置の有無が各大学の施設の充実度の尺度になるとい

う考えを出したが、これは、文部省で注意を惹いている。

## 2. 物性研報告（守谷、補足—山田（安）、石井）

○物性研を中心とする3号炉に設置された中性子回折装置共同利用の公募について：原研改3号炉の共同利用研究が1991年度から発足するが、これに関連して、これまで、物性研の他、金研、原子力総合研究センター（原総センター）の3つあった窓口を1991年度から、原総センター1本にしぼることにしたい。外来研究員等委員会で議論してもらおうが、公募を年1回にするなどの手続き上の手直しが必要である。

○SR関係：物性研がかねてから整備をすすめてきた高エネ研PFリングのBL-18の固体表面研究用電子分光装置を1991年4月より共同利用実験に提供することとなった。物性研は、実験のお世話と、物性研で備えてきた設備のメンテナンスのみを行うこととし、公募受付・審査、旅費支給、宿舎の世話、消耗品費の負担は高エネ研で行うこととなった。

○Supercomputerを次の概算要求の主要項目にしたいので、物研連の支持をお願いしたい。

○転出所員が4名あったが2名の後任が決定し、残りは選考中である。

## 3. 基研報告（長岡）

○広大理論研との合併にともない共同利用旅費の増額があったので、新しい使い方を検討中である。

○国際交流についても、新しい企画を検討中である。Santa BabaraのITPとの協力も1990年から始める。

○理論研との合併後の運営方式、人事、大学院、任期性については、現在は「暫定措置」で運用中であるが、このままではすまないで、永続的な制度を検討中である。たとえば、宇宙分野の研究者から大学院生をとれるようにという要望が出るなど、旧来の基研のやり方を手直しすべきであるという意見も出ている。

## 4. 物性委員会（長岡）

○岐阜の分科会の期間中に「拡大物性委員会（あるいは「物性グループ懇談会）」を開き物性将来計画について議論した。50名を上回る出席があったが参加者の平均年齢がやや高いという印象をもった。報告は、事務局報に出す。

○今年度末に物性グループの登録をしなおし、100人委員の選出にうつる。

#### 5. ワーキンググループ (WG) 報告 (伊達、精谷)

前期の報告のfollow up を行った。中性子関係は、原子炉もパルスも一応前期の要望が実現された。SRは西播磨以外は、不透明である。今後、読みやすい報告書を短くまとめて出したい。

#### 6 研究教育調査小委員会報告 (長岡)

前期物研連で設置が決まった標記委員会に物性専門委員会からは小林俊一、長岡洋介の2名が出ている。研究環境、後継者養成問題 (大学院問題) を中心に危機的状況の調査を行いたい。まずは、既存データを集めて分析したい。

#### [審議事項]

##### 1. 物性研各種委員会委員について。

共同利用施設専門委員会委員については百人委員に選出を依頼することとし、この場で人事選考協議会委員を選出したい旨長岡委員より提案があり、これを了承した。無記名投票の結果、下記の2名を物性研に推薦することとなった。

理論 高山 一

実験 小松原武美

##### 2. 物性研supercomputerについて。

守谷所長の説明および物性研作成の資料にもとづきfree discussion をおこなった。

- (Q) 物性研のいろいろな要求の中での位置づけについて知りたい。→ (A) かねてより要求していた中性子関係は、実験設備が動きだし、残る「施設」の要求は実験設備の設置完了後、強力に推進したい。当面の要求は、このsupercomputerと新物質開発計画の設置と人員、客員部門 (極限物性および新物質開発) である。
- 計算物性物理の研究者は増えており、supercomputerの需要は急増している。中堅の研究者は他分野の研究所などのsupercomputerを使わせてもらう等苦心しているが窮状にあり、物性専用のものを是非ほしい。置くとしたら、物性研以外にはない。
- いいチャンスだから是非協力したい。

以上のような議論ののち、翌日の物研連で支持を求めることとし、運審等での議論の準備は物性研で行うこととした。

### 3. 科研費分科細目の改定について。

守谷委員より、科研費分科細目を増やせる見通しがあること、原子核専門委員会と物理学一般専門委員会は細目増を考えていないので、物性の関係の細目増は要求すれば通る可能性のあることが報告された。分割の方法については、いろいろな議論があったが、

(A)

固体物性Ⅰ（光物性、半導体等）

固体物性Ⅱ（磁性、金属、低温等）

物性一般（基礎理論を含む）

(B)

固体物理

電子物性

物性一般

の2案がまとめ、出席委員の意見分布を求めたところ(A)案を好ましいとする委員14名、(B)案を好ましいとする委員9名であった。この議論過程を考慮して、守谷委員が物性専門委員会の希望を伝えることとなった。

### 4. SSC問題。

久保物研連委員長のまとめた「見解(案)」について、以下のような議論が出た。

- ・政治決着を警戒する必要がある。
- ・「見解」の最後の「要約」の(1)を見ると物研連は基本的にはSSCを支持すると言いきっているようだが、これでよいのか。
- ・この部分が一人歩きしたら困るのではないか。

以上のような議論ののち、翌日の物研連で「見解(案)」について議論を継続することとした。

### 5. 次期物研連について。

今期と同じ手続きで委員を選出することとした。

以上

---

プレプリント案内

---

[東京大学理学部 和田研究室]

1712

T. Kishi, K. Kubo,  
A Variational Estimation of the Ground State Energy of the Frustrated Heisenberg Model

1713

K. Kubo, T. Kishi,  
Ordering due to Quantum Fluctuations in the Frustrated Heisenberg Model

1714

M. Ogata, T. Sugiyama, H. Shiba,  
Magnetic Field Effects on Correlation Functions in One-Dimensional Strongly Correlated Hubbard Model

1715

T. Pruschke, H. Shiba,  
Correlation Functions and Critical Exponents in One Dimensional Anisotropic  $t$ - $J$  Model

1716

S. Stafstrom,  
Soliton-Impurity Interaction in Heavily Doped trans-Polyacetylene

1717

C. L. Wang, G. L. Gu, Z. B. Su, L. Yu,  
Lattice Relaxation Studies of Polaron and Exciton Dynamics in M-X Chains

1718

R. M. Noack, D. J. Scalapino, R. T. Scalettar,  
Charge Density Wave and Pairing Susceptibilities in a Two Dimensional Electron-Phonon Model

1719

A. Moreo, D. J. Scalapino,  
The Two-Dimensional Negative- $U$  Hubbard Model

1720

S. Takagi,  
Quantum Dynamics and Non-inertial Frame of Reference I--Generality--

1721

R.M. Fye, M.J. Martins, D.J. Scalapino, J. Wagner, W. Hanke,  
Scaling of the Drude Weight for One-Dimensional Hubbard Rings



1722

S. Takagi,  
Quantum Dynamics and Non-inertial Frames of Reference.  
II----Harmonic Oscillators--

1723

Y. Hatsugai, M. Kohmoto, Y.-S. Wu,  
Anyons on a Torus:Braid Group, Aharonov-Bohm Period and  
Numerical Study

1724

Y. Nogami, H. Kaneko, H. Ito, T. Ishiguro, T. Sasaki, N. Toyota  
A. Takahashi, J. Tsukamoto,  
Low temperature electrical conductivity of highly conducting  
polyacetylene in magnetic field

1725

T. Tsuzuki,  
A Method of Finding Thermal Average by Differential Operation

1726

A. Tokumitsu, K. Miyake, K. Yamada,  
A Self-Consistent Theory of the Pair Fluctuations in the  
Two-Dimensional Fermi Superfluidity

1727

K. Harigaya,  
An Anderson Impurity in Conjugated Polymers I: A New Localized  
State in the Electronic Gap

1728

K. Harigaya,  
An Anderson Impurity in Conjugated Polymers II: Single Soliton  
Solutions by the Unrestricted Hartree-Fock Approximation

1729

K. Fesser, M. Wolf,  
Comment on exact results concerning the Peierls transition with  
impurities

1730

K. Harigaya, A. Terai,  
Metal-Insulator Transition in Doped Conducting  
Polymers:Disappearance of Electronic Gap with Persisting Bond  
Alternation

1731

T. Iwasaki, T. Arimitsu, F. H. Willeboordse,  
Transient Resonant Light Scattering for a Localized  
Electron-Phonon System within Non-Equilibrium Thermo Field  
Dynamics

プレプリント案内

1732

M. Ban, T. Arimitsu, T. Saito,  
A New Aspect within Non-Equilibrium Thermo Field Dynamics and  
Its Applications

1733

T. Arimitsu,  
Non-Equilibrium Thermo Field Dynamics and Thermal Processes

1734

T. Arimitsu,  
Quantum Langevin Equations and Quantum Stochastic Liouville  
Equations

1735

Y. Nakazawa, J. Takeya, M. Ishikawa,  
Effects of Oxygen Stoichiometry and Zn(Al) Substitution on Low  
Temperature Specific Heat Anomaly of  $\text{Ba}_2\text{YCu}_3\text{O}_y$  System

1736

Y. Hatsugai, M. Kohmoto, Y.-S. Wu,  
Anyons on a Torus: Braid Group, Aharonov-Bohm Period and  
Numerical Study

1737

K. Harigaya,  
Inter-Impurity Interaction and Dynamics of a Trapped Bipolaron  
in Doped Conjugated Polymers

---

## 掲 示 板

---

### 「修士論文」募集

本誌では、今年の修士論文を、2, 3編選び全文掲載したいと思います。学術的に価値の高いもの、研究内容がユニークで面白いもののほか、研究は完成していないが今後に興味ある問題提起を含むものや、Review的な力作など特色のある修士論文を投稿して下さい。原則として日本語で書かれたものを受け付けます。掲載の可否については編集部にご一任下さい。

1. 募集締切：1991年3月末日
2. 自薦、他薦は問わない。
3. 論文のコピーを二部お送り下さい。できるだけ、そのまま写真印刷できるワープロ原稿を歓迎します。その場合、図や写真は文中該当箇所に入れて下さい。
4. 枚数制限は特にありませんが、できるだけ簡潔なものを希望します。枚数の多いものは、縮めていただく場合があります。
5. 採用、掲載された論文の著者には別刷50部、無料で差し上げます。

### 「講義ノート」募集

本誌では、大学院特別講義の「講義ノート」を募集します。これまで一部の大学に限られていましたが、枠を広げ全国の大学で行われる物性関係の興味ある講義のノートを掲載したいと思います。つきましては、関係各位の方々に講義ノートの作成について御尽力をお願いします。

通常、大学院生にノートをとっていただき、講師のチェックの後、掲載しています。講師には別刷50部を寄贈し、ノート作成者には薄謝と別刷20部程度を差し上げています。講師の了解などはこちらで交渉致します。また、退官記念講演なども、歓迎します。内容と記録の可能性を考慮して、ご推薦もしくはご投稿下さいますようお願い致します。

## 科研費総合研究・一般研究の 報告書の転載について

「物性研究」では、科研費総合研究及び一般研究の報告書を本誌に転載したいと思います。研究成果報告として、立派な報告書が作成されても、限られた部数が関係者のみに配布される状況では、誰もが手軽に見ることが出来ません。また、そういった形の報告書は四散して失われる危険も大きく、本誌のような定期刊行物に掲載されれば、公開、保存のいずれにおいても意味があります。つきましては、ご投稿あるいはご推薦下さいますようお願いいたします。

既に印刷済みの報告書 2部を、転載を希望される部分を明示の上、お送り下さい。別刷はお渡ししないことになっておりますが、もし希望の場合は、部数をご連絡下さい。詳細は、本誌編集部までお問い合わせ下さい。

〒606 京都市左京区北白川追分町  
京都大学 湯川記念館内  
「物性研究」刊行会  
TEL. (075)753-7051

1. 公募人員： 教授 1名
2. 担当部門： 物性理論講座
3. 専門分野： 物性理論及び統計力学の広い分野
4. 着任時期： 決定後できるだけ早く
5. 提出書類： (1)履歴書  
(2)研究業績リスト  
(研究論文、国際会議招待講演、総説、著書に分け、  
それぞれ年代順に)  
(3)主要論文別刷  
(10編以内、研究業績リストに○を付ける)  
(4)研究業績の概要  
(5)着任された場合の研究計画  
(6)他薦の場合は上記内容を含む推薦書、自薦の場合は  
本人について所見を求め得る人2名の氏名と連絡先
6. 応募締切： 平成3年5月15日
7. 書類提出先及び問い合わせ先：  
〒812 福岡市箱崎6-10-1  
九州大学理学部物理学科  
川崎恭治  
(電話 092-641-1101 内線4152)
8. 封書に「応募書類在中」と朱書すること

## 編集後記

昨年どういう回り合わせか外国出張が多く、年間の半分近くを国外で過ごすことになってしまったので編集会議もほとんど出席する機会がありませんでした。日本に帰っている間とも2人の外国人の研究者が短期間ですが我々の研究に参加してくれたりしたものですので諸外国と比較して日本における国際間の共同研究の体制について考えさせられる機会がありました。又、最近の日本物理学会誌に日本に滞在している外国人が執筆した、長期滞在者による語学（日本語）研修の問題（1990年9月号）や、日本の研究体制についての批判（1991年1月号）などが掲載されています。極東の国日本も最近の経済の発展とも相俟って、国際化が急速に進んでいます。結果的には若い第一線の研究者が来てくれば日本の研究の活性化および国際化にとってこの上ないことです。

このような状況下にあって受け入れ側としての我々の問題点がいくつかあるように思われます。最も重要なことは受け入れ側の日本の研究環境やアクティビティが高いということでしょう。特に日本でポスト・ドクをやろうとしている若い研究者にとって研究成果が将来を決める上で大変重要なものです（おまけに本国とのいわゆるコネも薄れるでしょう）。卑近な例ですが、貿易黒字大国として有名な日本の大学の設備の悪さは西欧の人間にとっては信じられないと云った感じで、最近来たオランダの Walraven さんなどは物理教室の薄汚れた建物と校内に所狭しと駐車している自動車の写真をとって「帰ったらみんなに見せないと」と云っているのにはまいりました。おまけに院生は「屋上にペンペン草も生えているしな」とつけ加えていました。

次に気になることは日本人の英語力の問題です（私自身も英語には困っていますが）。日本の英語教育を教育とは考えずに生きていく上での生活技術と割り切って取り扱ってほしいものです。大学院の教育も一部英語でやると良いように思います（大学教育は日本でやるのが良いと思います）。

外国人の滞在期間は、長い人で1、2年、多くの場合数カ月といったところです。従って研究の実をあげる上で来日前の研究打ち合せや帰国後の研究の継続が重要です。招へいを色々なところに申請しても採択されるかどうかはわからず結果がわかるまでずい分長い時間がかかります。このような状況では真面目に計画する気がしないというのが本音です。特に先の予定があまり立たない若い研究者にとって、ポスト・ドクの職などは、よほどタイミングが良くないと応募が難しいことでしょう。受け入れ研究者側にもっと自由度を与えてほしいところです。

気になることを思いつくままに2、3書き出してみました。これから先、研究室規模で直面する問題であるように思いますが、いかがお考えですか。

(T. M.)

---

物 性 研 究 第55卷第4号 (平成3年1月号) 1991年1月20日発行

発行人 小 貫 明 〒606 京都市左京区北白川追分町  
京都大学湯川記念館内

印刷所 昭 和 堂 印 刷 所 〒606 京都市百万边交叉点上ル東側  
TEL(075) 721-4541~3

発行所 物性研究刊行会 〒606 京都市左京区北白川追分町  
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

年額 15,600円

---

## 会員規定

### 個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。  
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

#### 1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	4,200円
2nd volume (10月号～3月号)	4,200円
	計 8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。  
(振替貯金口座 京都1-5312) (現金書留は御遠慮下さい)  
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。  
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

### 学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。  
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075)753-7051 722-3540



物 性 研 究 55—4 (1月号) 目 次

○研究会報告

「熱現象を扱う場の理論とその応用」…………… 345

○特別寄稿

ランダム磁場イジング模型……………田崎 晴明…… 472

○議 事 録

第8回物性専門委員会(第14期)議事録…………… 488

○プレプリント案内…………… 492

○掲 示 板…………… 495

○編集後記…………… 498

## 物 性 研 究 55—4 (1月号) 目 次

### ○研究会報告

「熱現象を扱う場の理論とその応用」…………… 345

### ○特別寄稿

ランダム磁場イジング模型……………田崎 晴明…… 472

### ○議 事 録

第8回物性専門委員会(第14期)議事録…………… 488

○プレプリント案内…………… 492

○掲 示 板…………… 495

○編集後記…………… 498